

(イ) 室外機(室外機の前分岐～室内機の前分岐間：図1のB部)

間長(室外機から最も近い室内機まで)が900m(実長)以上の場合は、下記の通り主管サイズを変更してください。

室外機	主管サイズ(通常)	液管	ガス管	液管	長さが900m以上の場合の配管サイズ
335	φ25.4×t1.0	φ12.7×t0.8	φ28.58×t1.0	φ12.7×t0.8	φ12.7×t0.8
400					
450					
500					
560					
615	φ31.8×t1.1	φ15.88×t1.0	φ31.8×t1.1	φ15.88×t1.0	φ15.88×t1.0
670					
730					
775					
850					
900	φ38.1×t1.35	φ19.05×t1.0	φ38.1×t1.35	φ19.05×t1.0	φ19.05×t1.0
950					
1000					
1060					
1120					
1180	φ38.1×t1.35	φ19.05×t1.0	φ38.1×t1.35	φ19.05×t1.0	φ22.22×t1.0
1220					
1280					
1360					
1400					
1450					
1500					

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

(ウ) 室内機の前分岐～室内機の前分岐間：図1のC部

下流に接続される室内機の容量の合計により下表により決定ください。但し、主管(図1のB部)サイズを越えないでください。

室内機合計容量	ガス管	液管
～70未満	φ12.7×t1.0	φ9.52×t0.8
70以上～180未満	φ15.88×t1.0	φ12.7×t0.8
180以上～371未満	φ19.05×t1.0 ※1	φ12.7×t0.8
371以上～540未満	φ25.4×t1.0	φ15.88×t1.0
540以上～700未満	φ28.58×t1.0	φ15.88×t1.0
700以上～1100未満	φ31.8×t1.1	φ19.05×t1.0
1100以上	φ38.1×t1.35	φ19.05×t1.0

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

※1: 下流に室内機280を接続する場合かつ主管のガス管サイズがφ22.22以上の場合には、φ22.22×t1.0を使用してください。

(エ) 室内機前分岐～室内機間：図1のD部

室内機接続配管サイズ表 但し、主管(図1のB部)サイズを越えないでください。

室内機	容量	ガス管	液管
	22, 28	φ9.52×t0.8	φ6.35×t0.8
	36, 45, 56	φ12.7×t0.8	φ6.35×t0.8
	71, 80, 90, 112, 140, 160	φ15.88×t1.0	φ9.52×t0.8
	224	φ19.05×t1.0	φ9.52×t0.8
	280	φ22.22×t1.0	φ9.52×t0.8

φ19.05以上はC1220T-1/2H材を使用してください。

(4) 室外側分岐管セット選定

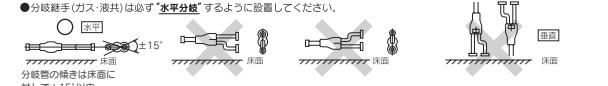
本分岐管セットは室外機と室外機前分岐管に必ず必要となります。

(※他ユニットとして使用する場合は必要ありません。)

●室外機との接続は室外機の前分岐管サイズに合わせてください。

●室内機側への配管(=主管)は次項目に示す主管サイズに合わせてください。

●分岐管(ガス・液共)は必ず「水平分岐」するように設置してください。



(5) 室内側分岐管セット選定

(ア) 分岐管セット選定方法

●分岐管サイズは室内機の前分岐管(下流の合計容量)により異なりますので右表より決定ください。

●室内機と室内側分岐管の配管サイズは室内機の前分岐管サイズに合わせてください。

●分岐管(ガス・液共)は必ず「水平分岐」又は「垂直分岐」するように設置してください。



●組合せ機は、以下の内容に注意し、配管工事を実施してください。

①組合せ機は、下図のようにガス管および液管ともに、必ず分岐管(型式DOS)前に500mm以上の過剰部を確保してください。

②組合せ機は、下図のように配管接続系統において室内機に近い室外機を、組合せ室外機中で最も小さい容量とし、室内機から近い室外機を組合せ室外機中で最も大きい容量としてください(同じ容量の組合せの場合は、接続位置は問いません)。

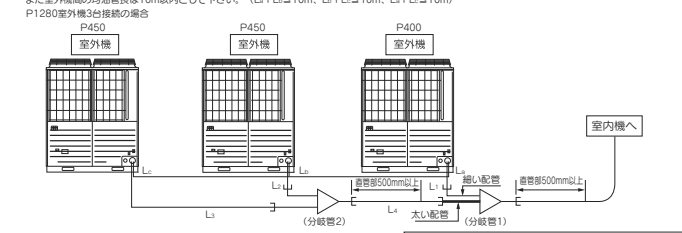
(例)下図のように、P1280(P400+P450+P450)の場合、配管接続系統で室内機に近い室外機をP400とし、室内機から近い室外機をP450とする。

③①台組合せ機の配管接続系統において室内機に最も近い分岐管(分岐管1)は、2段後の配管位置をずらしていただく必要は、必ず無い配管を室外機へ接続し、太い配管を2次分岐管へ接続してください。

④分岐管と室外機間の配管は5m以内と下さい。(L₁≤5m, L₁+L₂≤5m, L₁+L₃≤5m)

また室外機間の均等管長は10m以内として下さい。(L₁+L₂≤10m, L₁+L₃≤10m)

P1280室外機3台接続の場合

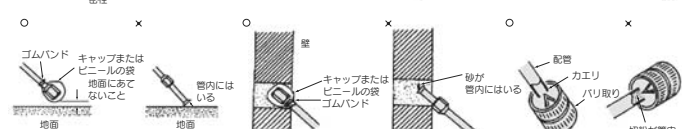
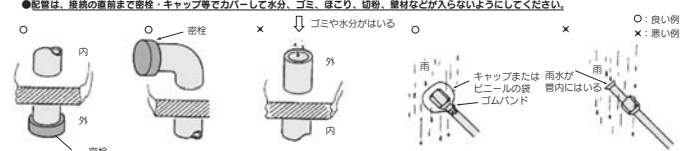


(2) 現地配管施工

●施工する配管はユニット内部部品に接触しないように注意ください。

●現場配管施工は、操作弁を全開のまま行ってください。

●配管は、接続の直直前でキャップ等でカバーして水分、ゴミ、ほこり、塵埃、塵埃などが入らないようにしてください。



●冷媒配管はできるだけ短く、直線になるように施工する。やむを得ず曲げる場合は、曲げ半径を配管外径の4倍以上にしてください。曲げ直後を何度でも行いください。

●冷媒配管を曲げる場合はベンダを使用し、パイプが2/3以下につぶれないようにしてください。

●室外機と冷媒配管の接続はフレア方式です。配管にフレアツールを取り付け、フレア加工を行ってください。

①パイプ切断：パイプの長さ(30～50mm)をもって、パイプカッターを使って、切断面を垂直にしてください。

②バリ取り：切り粉が配管内に入らないように、配管を向下向きにして、リーマを使用してください。

③バリを削ぐ除去：配管内の削ぐを、ドライバの柄など軽くたたき、ガーゼ布を使用して除去してください。

④フレア加工：フレアツールを挿入し、フレアダイス面から配管先まで適正な寸法でセットし(下表)、フレア内部はキズがないよう真円内で均一に加工してください。

R410Aのフレア加工寸法は、従来のR22、R407Cとは異なります。R410A用フレアツールを推奨しますが、出代調整ゲージにて出代仕寸法を調整すれば、従来のツールを使用できます。

⑤フレア部の確認：下表にてA寸法を確認し、図2のような形状となっていないか確認してください。

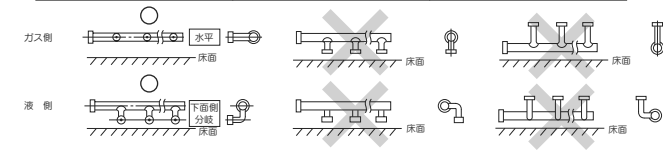
フレアツール寸法：H(mm)	フレア管部：A(mm)	フレア加工の鋼管出代：B(mm)
鋼管外径 H	鋼管外径 A	リジッド(クラッチ式)の場合 R410A専用フレアツール使用時
φ6.35 17	φ6.35 9.1	φ6.35 0.7~1.3
φ9.52 22	φ9.52 13.2	φ9.52 0.7~1.3
φ12.7 26	φ12.7 16.6	φ12.7 0.7~1.3
φ15.88 29	φ15.88 19.7	φ15.88 0.7~1.3

(イ) 配管・セット選定方法

●接続台数により分岐数(室内機接続数)に基づき(現地手配)を接続してください。

●つづし置のサイズはヘッドセット(別売品)を参照してください。

下流の合計容量	ヘッドセット型式	分岐数
～180未満	HEAD4-22-1G	最大4分岐
180以上～371未満	HEAD6-180-1G	最大6分岐
371以上～540未満	HEAD8-371-1G	最大8分岐
540以上	HEAD8-540-2G	最大8分岐

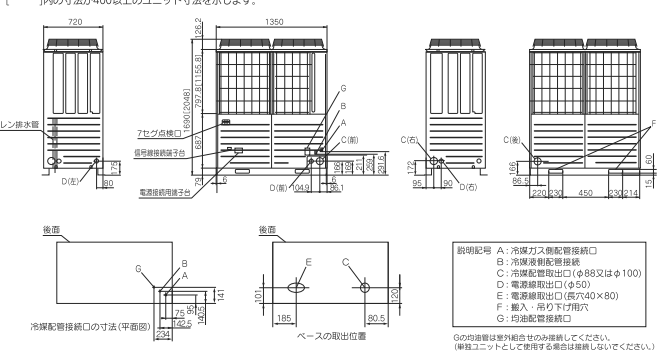


4-2. 配管工事

(1) 配管接続位置と配管取出方向

本図は容量335以下の図を示していますが、400以上もユニット高さが違うのみで配管接続位置と取出方向は同じです。

[]内の寸法が400以上のユニット寸法を示します。



●配管の取出しは上図に示す通り前・右・下・後が可能です。

●現地配管接続時、外板の貫通穴のハーフブランク(φ88又はφ100)をニッパにより切断し切り落とす使用してください。

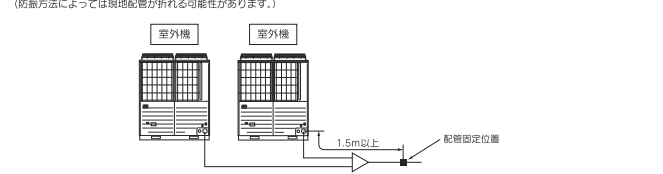
●配管取出し部により小動物等の侵入が考えられる場合は、配管取出し口を開閉(現地手配)で塞いでください。

●ドレン集中排水の際には、配管・配管の取出し口は下抜き以外をご利用ください。下抜きをご利用の場合は、ドレン水の流出がないよう十分シールしてください。

●現地配管は、エルボ(現地手配)を利用して操作弁と接続してください。

●現地配管の固定は下図のように配管固定部と室外機までの距離が1.5m以上になるようにしてください。

(防振方法によっては現地配管が折れる可能性があります。)



●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

操作弁サイズ (mm)	締め付けトルク (N・m)	締め付け角度 (°)	工具の短縮長さ (mm)
φ6.35 (1/4")	1.4~1.8	45~60	150
φ9.52 (3/8")	3.4~4.2	30~45	200
φ12.7 (1/2")	4.9~6.1	30~45	250
φ15.88 (5/8")	6.8~8.2	15~20	300
φ19.05 (3/4")	10.0~12.0	15~20	450

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

●液側、ガス側操作弁ともに右の図のように操作弁本体を固定し、適正な締め付けトルクで締め付けをお願いします。

●ガス操作弁との接続は必ず付属配管を使用してください。取付方法の詳細は付属配管の取付説明書をご覧ください。

●フレア接続はダブルパスでしっかりと締め付けてください。フレアツールの締め付けトルクは下表の値で行ってください。

●同一締め付けトルクでも、ユニオン(のねじ)部に冷媒漏れが起きた場合は、ねじ磨動摩擦係数が下がることにより、軸方向力が増加してフレアの応力集中の弊害となることあるため、フレア部に付け金は使用しないでください。

6-2. 電源接続要領

(1) 配線取出し方法

- 4-2の(1)に示す回りの配線の取出しは前・右・下・後が可能です。
- 断絶配線接続時、外機の貫通穴のホップアップをニッパにて切断し切り落とすご使用ください。
- ドレン集中排水の際は、配線・配管の取出し口は下向き以外をご利用ください。下記をご参照の場合は、ドレンホの高出がないよう十分シールしてください。

(2) 電源配線接続時の注意

- アース線は電源接続前には接続してください。また、端子台にアース線を接続する時は、アース線を電源線より長くし、アース線にジャンクションがないようしてください。
- 電源は工事完了するまで入れないでください。サービスは電源を切ってか行ってください。
- アース工事とは(第3種) 接地工事に基づき実施してください。
- 電源配線は必ず電源端子台に接続し、接地棒プラグにたるみ防止プラグを挿入してください。
- 電源端子台の接続は、右図の接続方法で行ってください。1個の端子に2芯接続する場合は、注意端子が両方合わせになるよう配線してください。また、その場合接線の細い配線しになるよう配線してください。
- 配線は指の太さの指でつまみ確認し、端子部にかかり加わらないように確認してください。
- 端子の1個の指付けには、適正な力(トルク)を制御していただく。電圧変動や端子のゆるみを確認する可能性があります。
- 電源工事終了後、電源設備内の各電気配線部のコネクタ抜けや端子抜けがないことを確認してください。

(3) 室外機電源仕様：三相200V 3-50/60Hz電源

機種	電源用 配線太さ (mm²)	配線寸法 (mm)	電圧・電流 (電圧・過電流・短絡電流)	アース線 太さ(mm²)	配線寸法 (mm)	電圧・電流 (電圧・過電流・短絡電流)	アース線 太さ(mm²)	配線寸法 (mm)
280	14	42	50A 100mA 0.1sec	3.5	M8×950	83 175A 200mA 0.1sec	14	M8
335	22	60	50A 100mA 0.1sec	3.5	M8×1000	100 80 175A 200mA 0.1sec	14	M8
400	22	49	50A 100mA 0.1sec	5.5	M6×1060	92 175A 200mA 0.1sec	14	M8
450	38	65	100A 100mA 0.1sec	5.5	M8×1120	100 83 175A 200mA 0.1sec	14	M8
500	38	61	100A 100mA 0.1sec	5.5	M8×1180	150 113 175A 200mA 0.1sec	14	M8
560	38	65	100A 100mA 0.1sec	6.5	M6 1220	150 102 200A 200mA 0.1sec	22	M10
615	38	62	100A 100mA 0.1sec	5.5	M6 1280	200 124 225A 200mA 0.1sec	22	M10
670	38	59	100A 100mA 0.1sec	5.5	M6 1360	200 114 250A 200mA 0.1sec	22	M10
730	60	78	100A 100mA 0.1sec	5.5	M6 1400	200 111 250A 200mA 0.1sec	22	M10
775	60	68	125A 200mA 0.1sec	8	M6 1450	200 109 250A 200mA 0.1sec	22	M10
850	100	97	150A 200mA 0.1sec	8	M6 1500	200 107 250A 200mA 0.1sec	22	M10
900	100	85	175A 200mA 0.1sec	14	M8			

- お願ひ(1) 配線要領は内蔵規格(JEAC8001)に基づいて決められています。
- (2) 右図のよう長・配線太さ、電圧降下を2%以内とした場合のよう長・配線太さを示します。
- (3) 右図のよう長が上の値を超える場合は、内蔵規格に依り配線太さを示します。
- (4) 電圧降下率の異なる電圧降下率の場合、別表に配線用と電圧降下の値が示されています。配線用と電圧降下の値については技術資料を参照いただくか、代理店又は販売店へお問い合わせください。
- (5) 組合せ形にて各機成室外機端子に電源を接続する場合は、該当する一体形の機種の電圧仕様に基づいて実施してください。
- (6) 組合せ形の電圧は、プルボクスの区分する場合と室外機間を渡る場合の2種類からお選びください。プルボクスの接続方法をご覧ください。

(4) 室内機電源仕様：単相200V 3-50/60Hz電源

室内機 合計電流	配線太さ (mm²)	配線寸法 (mm)	電圧・電流 (電圧・過電流・短絡電流)	配線用と電圧 降下率
7A以下	2	21	20A 30mA 0.1sec	
11A以下	3.5	21	20A 30mA 0.1sec	
12A以下	5.5	33	20A 30mA 0.1sec	
16A以下	5.5	24	30A 30mA 0.1sec	

6-3. 信号線接続要領

本機では通信方式であるスーパーリンクⅡ(以下「BSL」と表記します)とスーパーリンクⅢ(以下「SLⅢ」と表記します)の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ以下の特徴、制限がありますので接続する室内機や集中制御に合わせ選択してください。

SLⅢ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークにて信号線を接続する場合は冷凍系統が別であってもBSLでの通信を選択してください。

通信方式	スーパーリンクⅡ (BSL)	スーパーリンクⅢ (SLⅢ)
室外機の設定 (SW5-5)	ON	OFF (出荷時設定)
同一ネットワーク内の室内機台数	最大48台	最大128台
同一ネットワーク内の室外機台数	最大48台	最大32台
信号線 (合長長さ)	1000mまで	ケーブル線以外を使用する場合は2000mまで ケーブル線 (MVV5) 0.75mm²を使用する場合は1500mまで ケーブル線 (MVV5) 1.25mm²を使用する場合は1000mまで
(最長長さ)	1000mまで	1000mまで
ネットワークに接続可能な機器	SLⅢ未対応機 (FDPOC0002LXシリーズ) SLⅢ対応機 (FDPOC0003LXシリーズ) (FDPOC0004LXシリーズ) 互換性も可能 (同一冷凍系統内での設定は不可)	SLⅢ対応機 (FDPOC0003LXシリーズ) (FDPOC0004LXシリーズ)

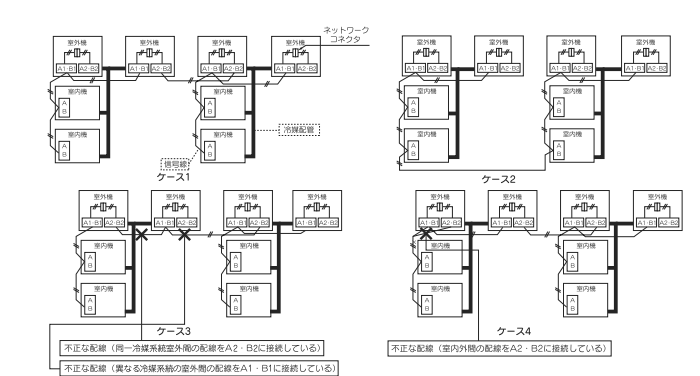
注：FDTP224.280型は室内機1台につき電源線上は2分岐と対応していません。

- 信号線はDC5Vです。必ず接地に200Vの配線を接続しないでください。端子台の保護ヒューズが動作します。
- ①信号線に200Vが印入しないようになっていることを確認してください。
- ②電源投入前に信号線端子台抵抗を200Ω程度にしてください。信号線端子台抵抗が100Ω以下の場合は、電源線を信号線端子台に接続していない可能性があります。
- 3) 以降のユニットが接続されている場合
抵抗値の目安=5100÷接続台数
2) 以降のユニットが接続されている場合
抵抗値の目安=9200÷接続台数
3) 以降の2型以上のユニットが接続されている場合
抵抗値の目安=46000÷(2型以上の接続台数×5) + (3型以降の接続台数×9)です。

接続時に室内機・室外機・集中制御機器を接続する場合は、信号線に200Vが印入しないようになっていることを確認してください。

抵抗値が100Ω以下になる場合は同一ネットワーク上の室内機台数を減らすため、一時的に信号線を外して複数のネットワークに分離し、個別に確認してください。

13



●ドレンノード設定

基板上的設定SW1-4及びSW5-2、室外基板上的設定SW1、2を「アドレス設定方法一覧」の表のよう設定してください。

基板	SW1, 2	室内No. 設定用 (10の位と1の位)
室内基板	SW1, 2	3 4 室外No. 設定用 (10の位と1の位)
室外基板	SW5-2	室内No. スイッチ (100位: OFF, 0, ON: 1)

●アドレス設定方法一覧 [] 内はBSL用の数値

自動アドレス	SLⅢ対応機		SLⅢ未対応機	
	室内機アドレス設定	室外機アドレス設定	室内機アドレス設定	室外機アドレス設定
室内No. SW	室内No. SW	室内No. SW	室内No. SW	室内No. SW
手動アドレス	000~127(47)	00~31(47)	00~31(47)	00~47
1冷凍系統自動アドレス	000	49	49	49
複数冷凍系統自動アドレス(系BSLのみ)	000	49	00~31	不明

本表は例を示しています。ネットワーク上のアドレスは子機が接続+1となります。

注：FDPOC0002LXシリーズのネットワークなどBSLのネットワークに新規に追加する場合は、通信方式はBSLを選択し、手動アドレス設定してください。

FDTP224.280型は室内機1台につき基板が2個あり、その2個の基板それぞれ異なる室内No. SWを設定してください。

●室内No. は室外基板と室内基板上にあり、どの室外機とどの室内機が冷凍配管で結ばれているかを示すNo. です。冷凍配管で結ばれた室内・室外機間同一室内No. とはなりません。

●室内No. は室内機を接続する際のNo. です。ネットワークの他の室内機と重複しないようにしてください。

以下の手順は室内機1台につき基板が2個あり、その2個の基板それぞれ異なる室内No. SWを設定してください。BSLを選択した場合は [] 内の数値に読み替えて作業を行ってください。

●手動アドレス設定 [] 内はBSL用の数値

①室外機のアドレス設定

電源投入前(次のとおり)に設定してください。電源投入することで室外アドレスが登録されます。

室外No. スイッチを00~31 [BSLの場合00~47] の範囲で設定してください。

ネットワーク上の他の室外No. と重複しないよう設定してください。

組合せの室外機の場合は、室外No. 用のロータリスイッチを組合せの室外機と同じ室外No. に設定し、さらに2台組合せ時は子機のディスプレイスイッチSW4-7をONに設定し、3台組合せ時は子機1のディスプレイスイッチSW4-7をONおよび子機2のディスプレイスイッチ4-8をONに設定してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定してください。)

②室内機のアドレス設定

電源投入前(次のとおり)に設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。

室内No. スイッチを000~127 [BSLの場合000~49] の範囲で設定してください。

室外No. スイッチは対応する室外No. を00~31 [BSLの場合00~47] の範囲で設定してください。

ネットワーク上の他の室内No. と重複しないよう設定してください。

冷凍系統 室外機 [SW1] SW2 SW4-7 ネットワーク上のアドレス

親機 2 2 OFF 22

A 子機 2 2 ON 23

B 子機 2 2 OFF 24

C 子機 2 2 ON 25

子機 2 4 ON 26

子機 3 1 OFF 31

子機 3 1 ON 00

本表は例を示しています。ネットワーク上のアドレスは子機が接続+1となります。

ただし、子機アドレスが31 [BSLの場合47] を超える場合は00から順次アドレスが設定されます。

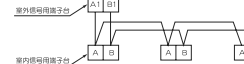
接続するアドレスを設定する場合、冷凍系統台数の機械アドレスは、冷凍系統台数のアドレスと重複しないよう設定してください。

5

室内・室外信号線

- A1・B1に室内・室外機間信号線をつないでください。
- A2・B2に室外機間信号線をつないでください。

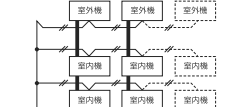
(1) 室外機1台の場合



●室内機信号線は電圧なしです。下部、図れも可能ですが。



(3) 下図のように信号線を接続する方法も可能です。



リモートコントロール配線仕様

- リモコン線は0.3mm²×2芯 (3LXシリーズ室内機) 3芯 (2LXシリーズ室内機) が標準です。延長は600mまで可能です。100m以上の場合は、右表に示す配線を使用してください。

長さ (m)	配線太さ
100~200m	0.5mm²
200~300m	0.75mm²
300~400m	1.25mm²
400~600m	2.0mm²

ご注意

室内・外ユニット間の断配線以外に、以下の断配線があります。ご注意ください。

①信号線とリモコン線の断配線

リモコン線と信号線を同一ケーブルで配線しないでください。

②信号線信号端子台への電源線接続

電源線(200V) 信号線

③リモコン線の断配線

リモコン線 信号線

信号ラインヒューズ(CNK)切れとなる。

エラー表示E1

7. コントローラーの設定

7-1. ユニットアドレスの設定

本制御システムでは、複数の空調機を室外機と室内機及びリモコンからなるコントローラを、各コントローラ内のマイコンにより通信制御するものです。アドレスの設定は室外機と室内機の間で行ってください。室外機・室内機の電源を入れてください。間隔は1分を目安にしてください。

本機では通信方式であるスーパーリンクⅡ (BSL) とスーパーリンクⅢ (SLⅢ) の2通りの通信方式が選択できます。それぞれ16-3の表の特徴、制限があります。

SLⅢ未対応の室外機、室内機、集中制御機器が接続されているネットワークに信号線を接続する場合は冷凍系統が別であってもBSLでの通信を選択してください。

アドレス決定後通信ができるようになると室外機7セグで通信方式を確認してください。

●アドレス設定の準備

アドレス設定方法は下記の方法があります。自動アドレスは従来と手法が異なります。本説明書をよく読んでご使用願います。

アドレス設定方法	SLⅡ		BSL	
	自動	手動	自動	手動
複数の冷凍系統を信号線で接続する場合 (例えば集中制御を行う場合)	ケース1 複数の冷凍系統を接続する信号線が室外機間で接続されている場合 (ネットワークコネクタを外した際に各冷凍系統が1系統ずつ分離される状態)	OK ^{※1}	OK	x
冷凍系統が1系統の場合 (信号線が冷凍系統をまたがない場合)	ケース2 複数の冷凍系統を接続する信号線が室内機間で接続されている場合	x ^{※2}	OK	x

※1 A1・B1に室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース3)

A2・B2に室外機間信号線を接続しないでください。アドレス設定ができない場合があります。(ケース4)

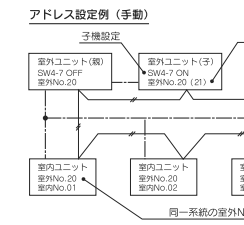
※2 (ケース2) の場合自動アドレス設定ができません。手動にてアドレス設定を行ってください。

14

③室外機→室内機の順で電源を入れてください。間隔は1分間以上を目安にしてください。

※同一ネットワーク内にSLⅢ未対応機がある場合、SW5-5をONにして通信方式をBSLとしてください。BSLの場合、ネットワーク最大接続室内機台数は48台です。

アドレス設定例 (手動)



自動アドレス設定 SLⅢ/BSL共通 [] 内はBSL用の数値

SLⅢでは従来の冷凍系統が1系統の場合の自動アドレス設定に加え、複数の冷凍系統を信号線で接続する場合でも室内機の自動アドレス設定が可能です。

ただし、配線方法等、条件がありますので本説明書をよく読んで実施願います。

(1) 室外機が1系統の場合 (SLⅢ/BSL共通 [] 内はBSL用の数値)

①室外機のアドレス設定

電源投入前(次のとおり)に設定してください。

室外No. スイッチが00~31 [BSLの場合00~47] の範囲で設定してください。

組合せの室外機の場合は、室外No. 用のロータリスイッチを組合せの室外機と同じ室外No. に設定し、さらに2台組合せ時は子機のディスプレイスイッチSW4-7をONに設定し、3台組合せ時は子機1のディスプレイスイッチSW4-7をONおよび子機2のディスプレイスイッチ4-8をONに設定してください。(親機と子機の室外No. を同じ設定してください。)

②室内機のアドレス設定

電源投入前(次のとおり)に設定してください。電源投入することで室内アドレスが登録されます。

室内No. スイッチが000~127 [BSLの場合000~49] の範囲で設定してください。

室外No. スイッチは対応する室外No. を00~31 [BSLの場合00~47] の範囲で設定してください。

ネットワーク上の他の室内No. と重複しないよう設定してください。

冷凍系統 室外機 [SW1] SW2 SW4-7 ネットワーク上のアドレス

親機 2 2 OFF 22

A 子機 2 2 ON 23

B 子機 2 2 OFF 24

C 子機 2 2 ON 25

子機 2 4 ON 26

子機 3 1 OFF 31

子機 3 1 ON 00

本表は例を示しています。ネットワーク上のアドレスは子機が接続+1となります。

ただし、子機アドレスが31 [BSLの場合47] を超える場合は00から順次アドレスが設定されます。

接続するアドレスを設定する場合、冷凍系統台数の機械アドレスは、冷凍系統台数のアドレスと重複しないよう設定してください。

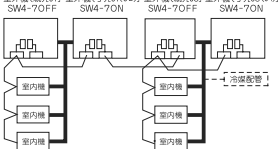
5

[STEP4] (ネットワーク確定設定)

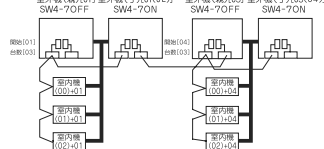
- ④ ネットワーク接続
各室外機（組合せの場合：縦機）ごとに「AUE」表示を確認したら③で外した**ネットワークコネクタを接続**してください。
- ⑤ ネットワーク機能性設定
ネットワークコネクタの接続を確認後、ネットワークの機能性設定のため、任意の室外機1台のみ（組合せの場合：縦機1台のみ）
「設定完了」のP34で「1」を選択して設定をしてください。
- ⑥ 設定完了確認
ネットワークが確定したら各室外機（組合せの場合：縦機）の7セグ「End」を表示します。「End」表示は7セグ操作もしくは3分経過後使用終了します。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4
内電源	②OFF	④ON	—	—
外電源	①OFF	④ON	—	—
室内機	⑤内000	—	—	—
(室内/室外 No. SW)	⑤外 49 (5分待)	—	—	—
室外機(室外 No. SW)	①外 03 (8分)	—	—	—
ネットワークコネクタ	③必ず	—	—	⑥接続(室内/室外機)
自動アドレス開始設定	—	⑤各室外で開始設定セット	—	—
開始アドレス設定	—	⑤001・101 (8分) 903・104 (8分)	—	—
確立時間設定	—	⑤001・103 (8分) 903・103 (8分)	—	—
確立時間	—	⑤10分	—	—
7セグ表示(組合せの場合: 縦横)	—	⑦「AUX」(点滅)	⑧「AUE」(点滅) エラータは「AOO」表示	⑨付帯室外機がある7セグP34セット
				⑩「End」

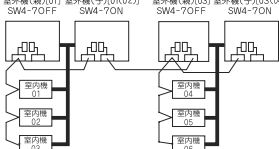
[STEP1]



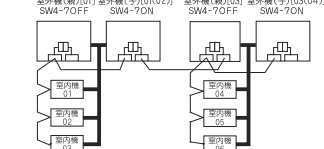
[STEP2]



[STEP3]



[STEP4]



- 必ず一対一の線内からアドレス指定と室内機の種類に暗黙に決定されますので、必ずしも図のように室外機に近い順番で付番されてはおりません。必ずその室内機の電源が切れていることを確認してください。
- 設定完了後リモコンの電源スイッチを押すと決定した室内機アドレスNo.と室外機アドレスNo.が表示されます。
1. つりリモコンで再度照明を点灯すると各室内機と自動移動システムは起動します。
2. 1番照明のアドレスは電源が通ったままのリモコンで記憶されています。
3. 1番照明以外の照明のアドレスを変更したい場合は「リモコン」の「アドレス変更」ボタンを押して「アドレス変更」メニューに入ります。
4. 変更の場合はタッチパネル上の他のアドレスNo.を選択し新しいアドレスを設定してください。
- ・自動移動システムが必ず3秒間は制御信号の電線を伝えている必要があります。
- ・アドレス決定後は必ず試運転を実施し、全ての室内機、室外機が正常に動作できているを確認し各室内機のアドレスを確認してください。

アドレス変更 (SL IIのみ可能)

「アドレス変更」とは「自動アドレス設定」で既に設定した室内ユニットアドレスをリモコンで変更したい場合に使用します。

	室内機アドレス設定		室外機アドレス設定
	室内No.SW	室外No.SW	室外No.SW
1 冷媒系統自動アドレス	000	49	49
複数冷媒系統自動アドレス	000	49	00～31

この条件以外のアドレス設定の場合に「アドレス変更▼」を選択した時点でリモコンに下記表示を3秒間します。
ドット液晶表示:「操作無効です」(3秒間点灯)

●自動アドレス設定時の7セグ表示

おの各様で設定して頂く項目	
Code	表示内容
P30	通信方式表示 0 : ISL方式 (通信状態を表示します。設定はできません。) 1 : SLIP方式
P31	自動アドレス開始入力
P32	開始アドレス入力 自動アドレス時の開始室内アドレスを指定する
P33	接続室内機台数入力 自動アドレス時の末端配置を接続している室内機台数を指定する
P34	権性送信 0 : ネットワークを確定しない 1 : ネットワークを確定する

アドレス設定時の表示

Code	表示内容
AUX	自動アドレス設定中 X: 室外機が認識した室内機の台数
AUE	室内機アドレス 付番 正常終了
End	極性確定 (自動アドレス) 正常終了

エラー時の表示

Code	表示内容	ここを点検して下さい
A01	実際に通信できる室内機台数が7台P33で設定した台数より少ない	通信状態はゆるみがあるか継続されていますか。 接続室内機台数を1台し直してください。
A02	実際に通信できる室内機台数が7台P33で設定した台数より多い	通信状態はゆるみがあるか継続されていますか。 ネットワークコネクタが外れていませんか。 接続室内機台数を1台し直してください。
A03	開始アドレス(P32)+接続室内機内数(P33)>12台	開始アドレスを入力し直してください。 接続室内機台数を入力し直してください。
A04	IPアドレス設定ユニットがネットワーク上に存在する時、 旧システム開始アドレスを設定を行った。	手動アドレス設定を行っている。 旧システム設定をネットワークから分離してください。 そのユニットをRSL設定しないでください。

異常表示

Code	表示内容	要 因
E31	室外機アドレス重複	・ 同一ネットワーク上に複数のモジュールが存在
E46	設定不良	・ 同一ネットワーク上で自動アドレスとリモコンアドレス混在

操作手順








ecoタッチリモコンを接続の場合には、リモコンに同梱しております据付工事説明書の据付設定をご覧ください。

(1)リモコンに接続している室内機が1台の場合

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	①エアコンNo.スイッチを3秒以上押し続けてください。 ②◆を押す時に表示が切替わります。	[アドレス変更▼] ⇒ [居室内アドレス▲] [内001 外01] (1秒) → [室内No.設定▼] (1秒) → [内 001◆] (点滅)
2 新室内No.の設定	③◆スイッチにより新室内No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチでー1つ表示が変化します。	[内 000▲] ⇒ [内 001◆] ⇒ [内 002◆] ⇒ . . . ⇒ [内 127▼]
3 新室外No.の設定	④アドレス選択後、セツトスイッチを押してください。室内アドレスNo.を確定します。 ⑤確定した室内アドレスNo.を2秒表示した後、室外アドレスNo. 設定表示となります。 初期表示は現在の設定アドレスNo.を表示します。 ⑥◆スイッチにより新室外No.をセットしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチでー1つ表示が変化します。	[内 002] (2秒) [内 002] (2秒点灯) → [新室外No.設定▼] (1秒) → [外 01◆] (点滅) [外 00▲] ⇒ [外 01◆] ⇒ [外 02◆] ⇒ . . . ⇒ [外 31▼]
	⑦アドレス選択後、セツトスイッチを押してください。室外 No. 及び室内 No. を確定します	[内002 外02] (2秒点灯) → [確定完了] (2秒点灯) → 一停止状態に戻る

(2)リモコンに接続している室内機が複数台の場合

接続している室内機が複数の場合は配線はそのまま夫々のアドレスを変更することができます。

項 目	操 作	表 示
1 アドレス変更モード	①エココンNo.スイッチを押して押し続けしてください。 ②  を押す毎に表示が切換わります。	「アドレス変更▼」 「アドレス変更▼」 「[室内No]アドレス▲」
2 変更する室内機への選択	①「アドレス変更▼」表示のときにセットスイッチを押してください。 リモコンに接続している室内機のうち最も近い番地を表示します。 ②  スwitchによりリモコンに接続している室内機と、それに接続している 室外機の番号が順に表示されます。	「室内ユニット選択」(1秒) →「[内 001 外 01▲]」(点滅) 「[内0019 外 01▲]」 ⇄「[内002 外 01 ]」 ⇄「[内003 外 01 ]」 ⇄「...」 ⇄「[内016 外 01▼]」
3 新室内No.の設定	①  スwitchにより新室内No.をセッティングしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1つ表示が変化します。	「室内No.設定▼」(1秒) →「[内 001▼]」(点滅) 「[内 000▲]」 ⇄「[内 001▼]」 ⇄「[内 002▼]」 ⇄「[内 127▼]」
4 新室外No.の設定	①アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室内No.を確定します。 ②確定した室内アドレスNo.を不表示しただけ、室外アドレスNo.設定表示となりません。 初期表示は既定のアドレスを表示します。 ③  スwitchにより新室外No.をセッティングしてください。 ▲スイッチで+1、▼スイッチで-1つ表示が変化します。	「[内 002]」(2秒) 「[内 002]」(2秒点灯) 「[室内No.設定▼]」(1秒) →「[外 01▼]」(点滅) 「[外 00▲]」 ⇄「[外 01▼]」 ⇄「[外 02▼]」 ⇄「[外 31▼]」
④アドレス選択後、セットスイッチを押してください。室外No.及び室内No.を 確定します	①引き続きアドレス変更を実施したい場合 ④に戻ります	「[内002 外02]」(2秒点灯) →「[次番地選択▼]」(1秒点灯) →「[室内機選択▼]」(点灯)
5 終了	①終了したい場合1 (変更したいアドレスを反映する場合) ②の状態  スwitchを押して「[終了▲]」を選択してください。 アドレス変更が完了した場合は「[終了▲]」でセットスイッチを押して下さい。設定を送信 している間、「[設定完了▼]」の不表示です。その後リモコン表示が停止状態に変わります。 それ以外に終了したい場合2 (変更したいアドレスを反映しない場合) 設定の途中で「運転/停止」スイッチを押してください。 そのモードで強制終了し停止状態となります。 その状態で変更したいアドレス設定は反映されません。	「[終了▲]」 →「[設定完了▼]」(2~10秒点灯) →停止状態 「運転/停止」 →強制終了

- ※スイッチは0.75秒以上押しつけることで、0.25秒間に表示を連続して1つ切り換ええます。
 ・操作途中でリセットスイッチを押すと直前のセレクトスイッチ操作前の表示に戻ります。
 ・本モードの途中で、室内No.を変更しても、「**室内No.選択中▼**」で表示される室内No.は本制御に入る前に記憶している室内No.を順に表示します。
 【設定完了】の達した時点で、室内No.が確定します。
- ご注意 ・集中制御機器はアドレス決定後、電源を入れてください。 ・電源を入れる順番を間違えますとアドレスを認識しない場合があります。

7-2. 制御の切替

室外機の制御内容は、下記のとおり基板上的ディップスイッチと7セグ上のP〇〇にて切換えることができます。

7セグ上のP00切替時は、SW8(7セグ表示アップ：1位)、SW9(7セグ表示アップ：10位)及びSW7(データ書込/決定)長押しにて設定することができます。

制 御 切 換 方 法		制 御 切 換 内 容	
基板に SW設定	7セグ上 POC設定		
SW3-7 を ON*1	外部入力機能切り当てを "2" に設定*1	冷暖強制モード (外部入力)選択開放の場合、短絡、短絡復帰と固定できます)	
SW5-1 を ON + SW5-2 を ON	—	冷房試運転	
SW5-1 を ON + SW5-2 を OFF	—	暖房試運転	
室外機の渡接操作を閉じ、下記に示す順に操作する。			
(1) 基板に SW5-2 を ON	—		
(2) 基板に SW5-3 を ON	—		
(3) 基板に SW5-1 を ON	—	ポンプダウン運転	
SW4-5: OFF, SW4-6: OFF*1	80% (出荷時設定)		
SW4-5: ON, SW4-6: OFF*1	60%		
SW4-5: OFF, SW4-6: ON*1	40%		
SW4-5: ON, SW4-6: ON*1	0%	外部入力機能切り当てを "1" に設定*1	外部入力端子に信号を入力するとデマンドモードになります。 (J13短絡時: レベル入力。 J13開放時: バルス入力)
SW5-5	—	通信方式切換	ON: IISL通信 OFF: SL II
J13: 短絡 (出荷時設定), J15: 開放時	—	外部入力切換 (OnSl, CnSl2) の	短絡: レベル入力, 開放: バルス入力
J15: 短絡 (出荷時設定), J15: 開放時	—	デフrost切換	短絡: 通常デフrost, 開放: 強化デフrost
—	P01	運転優先切換	0: 先押し優先(出荷時) 1: 後押し優先
—	P02	室外ファン防雪制御	0: 制御無効(出荷時) 1: 制御有効
—	P03	室外ファン防雪制御	ON時設定 30秒(出荷時) 10、30、600秒
—	P04	デマンド比率変更(2段階デフrostモード比率*2)	OFF: 無効(出荷時) 000、040、060、080 [%]
—	P05	静音モード設定	0: 制御有効(出荷時)
—	P06	外側入力(Cn2I)機能切り当て	
—	P07	外側入力(CnS1)機能切り当て	
—	P08	外側入力(CnS2)機能切り当て	
—	P09	外側入力(CnG1)機能切り当て	
—	P10	外側入力(CnG2)機能切り当て	
—	P11~	予備	

- ※1 外側入力機能割り当て (P07~10) と、SW両方が切り替わられた時に制御が切り替わります。
(例: CnS1を冷暖強制モードの入力に使用する場合P07を2、SW3-7をON、CnS2を冷暖強制モードの入力に使用する場合はP08を2、SW3-7をONする)
※2 省エネモード制御の時は、外側入力端子に信号を入力しなくても能力制限が有効となります。

7セグ上で外部入力機能割り当て（P07～10）を切り換えることで外部入力端子の機能を切り換えることができます。外部入力端子に信号を入力すると下記の機能が有効になります。

外部入力機能制り当での設定値	外部入力端子短絡時	外部入力端子開放時
0*: 外部運転入力	許可	禁止
1*: デマンド入力	無効	有効
2*: 冷暖強制入力	暖房	冷暖
3*: 静音モード1**	有効	無効
4*: 予備	有効	無効
5*: 室外ファン制御制り当入力	有効	無効
6*: 送風板外部入力1 (SW5-1段等)	送風板	送風
7*: 送風板外部入力 (SW5-2段等)	送風板	暖房
8*: 静音モード 2**	有効	無効
9: 2段階デマンド入力	無効	有効
10: A/F 定期点検表示	有効	無効
11: A/F 異常表示	有効	無効
12: ビルマルチビルエネ制御	有効	無効

- ※1 外温によって有効／無効を切替える。
※2 外温によらず常に有効。

7セグ上のP06を切り換えることでCnZ1の外部出力機能を切り換えることができます。

*0° : 運転出力
*1° : 異常出力
*2° : コンブON出力
*3° : ファンON出力
*4～9° : 予備

7-3. 外部入出力端子仕様

名 称	途（工場出荷時）	仕 様	基板名・XAX
外部入力CnS1	外部駆動入力（工場出荷時短絡）	無電圧接続(DC12V)	ニータツ B02B-XAK-2 (LF) (SN)
外部出力CnH	エミッタ出力（工場出荷時短絡）	無電圧接続(DC12V)	ニータツ B02B-XAK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG1	共通駆動入力（工場出荷時短絡）	無電圧接続(DC12V)	ニータツ B02B-XAEK-2 (LF) (SN)
外部入力CnG2	静電キ一入力（工場出荷時短絡）	無電圧接続(DC12V)	ニータツ B02B-XASK-2 (LF) (SN)
外部出力CnI	集電出力（外部出力）	DC12V出力	モリツク 5566-02-RE
外部出力CnH	集電出力	DC12V出力	モリツク 5266-02A-BU
外部出力CnY	集電出力	DC12V出力	モリツク 5266-02A

